

米国航空宇宙局（NASA）の2011会計年度予算について

平成22年5月14日
宇宙開発委員会事務局

本年2月11日に予算教書において示されたNASAのFY2011の予算の概要は以下のとおり。

(単位：百万ドル)

	FY2010	FY2011	増△減	備 考
科学 (Science)	4,493.3	5,005.6	512.3	○科学衛星を中心とした宇宙科学
地球科学 (Earth Science)	1,420.7	1,801.8	381.1	<ul style="list-style-type: none"> ・地球科学衛星の開発・運用とデータ解析 ・オバマ政権では研究評議会 (NRC) が提示した気候変動ミッションに本格的に取り組む方針 (ICESat-2、SMAP など) ・Venture Class Missions として小型の衛星又はミッション機器を競争的環境下で開発するもの (多国の衛星に乗せることも視野に入れている) ・LDCM (Landsat 後継)、GPM、OCO-2 なども含む
惑星科学 (Planetary Science)	1,341.3	1,485.7	144.4	<ul style="list-style-type: none"> ・無人の惑星科学探査機の開発・運用 ・小型探査プログラムの Discovery、中型探査プログラムの New Frontier を含む ・資金規模としては火星無人探査が最大
天体物理学 (Astrophysics)	1,103.9	1,076.3	△27.6	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙天文衛星の開発・運用とデータ解析 ・ハッブル宇宙望遠鏡、ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡を含む ・高々度気球プロジェクトを含む
太陽系物理学 (Heliophysics)	627.4	641.9	14.5	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽観測衛星や太陽系観測衛星の開発・運用とデータ解析 ・太陽を直接観測するものと太陽周辺の磁場・電場などを観測するプログラムの双方を含む ・観測ロケットを含む
航空宇宙研究・技術開発 (Aeronautics and Space Research and Technology)	507.0	1,151.8	644.8	○航空科学技術の研究開発と宇宙技術の基盤開発

航空研究 (Aeronautics Research)	507.0	579.6	72.6	<ul style="list-style-type: none"> ・航空分野の研究開発（安全性研究等） ・最大のプロジェクトは次世代航空システムを開発する NextGen
宇宙技術開発 (Space Technology)	— * 1	572.2	572.2	<ul style="list-style-type: none"> ・FY2011 より組織横断的支援から IPP (Innovative Partnership Program) を移して新規に項目だてされたもので、基盤となる宇宙技術を産官学連携で開発するもの (SBIR など) ・小型衛星、超小型衛星の実証プログラムを含む
探査 (Exploration)	3,779.8	4,263.4	483.6	○有人宇宙探査に関する研究開発・技術開発
探査研究開発 (Exploration R&D)	— * 2	1,551.4	1,5541.4	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の有人宇宙探査にかかる技術開発 ・技術実証、大型輸送系 (Heavy Lift) 開発、無人機による事前探査 (Robotic Precursor Missions)、人体研究 (Human Research) からなる
商業宇宙飛行 (Commercial Spaceflight)	— * 2	812.0	812.0	<ul style="list-style-type: none"> ・商業軌道輸送サービス (COTS) プログラムを発展させたもので、民間に補助をしつつ宇宙輸送系を開発する ・物資輸送の Commercial Cargo (\$312M) と人の輸送の Commercial Crew (\$500M) に分かれる
コンステレーション計画移行 (Constellation Transition)	— * 2	1,900.0	1,900.0	・コンステレーション計画のキャンセルに伴う移行費用
コンステレーション計画 (Constellation Systems)	3,325.8	0	△3,325.8	・オバマ政権による注視されたブッシュ政権で打ち出された新宇宙探査ビジョン (VSE) を具現化する計画 (Ares1、Orion など)
先端技術開発 (Advanced Capabilities)	454.0	0	△454.0	・将来の探査活動に必要となることが見込まれる技術を先行的に開発するもので、FY2011 より探査研究開発に統合
宇宙運用 (Space Operations)	6,180.6	4,887.8	△1,292.8	○スペースシャトル及び ISS の運用等
スペースシャトル (Space Shuttle)	3,139.4	989.1	△2,150.3	・スペースシャトルの運航経費
国際宇宙ステーション (ISS)	2,317.0	2,779.8	462.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ISS の運用経費 (利用研究含む) ・物資や人の輸送サービス調達が半分弱を占める ・利用研究では将来的な有人探査に向けた宇宙医学研究などが重視されている
宇宙飛行支援 (Space and Flight Support)	724.2	1,119.0	394.8	・シャトル射場の整備、エンジン燃焼試験、宇宙飛行士の管理、深宇宙ネットワークの管理・運用等

教育 (Education)	183.8	145.8	△38.0	○NASA の実施する教育プログラムにかかる経費 ・ 高等教育向けと 12 歳以下向けがある
組織横断的支援 (Cross-Agency Support)	3,095.1	3,111.4	16.3	○かつてセンター・部署ごとに分かれていた管理・運営経費等を まとめたもの
センター管理・運営 (Center Mgmt & Ops)	2,067.0	2,270.2	203.2	・ 10 のセンターの管理・運営にかかる経費
組織管理・運営 (Agency Mgmt & Ops)	941.7	841.2	△100.5	・ NASA 全体の管理・運営にかかる経費で、ミッション保証、I T サービス、共用設備の管理・運用経費が含まれる ・ IPP を航空宇宙研究・技術開発に移したが額が増えているので 全体的に強化されている
設備投資 (Institutional Investment)	23.4* ³	0	△23.4	・ 設備整備や改修などにかかる経費で、新たに「建設・環境適合・ 修繕」として項目立てされた
議会指示対応 (Congressionally Directed Items)	63.0	0	△63.0	・ 議会が予算を作成する際に付加されるプロジェクト (いわゆる 「Earmarks」) の実施にかかる経費
建設・環境適合・修繕 (Construction and Environmental Compliance and Restoration)	448.3	397.3	△51.0	○組織横断的支援から新たに分岐された設備整備や改修にかか る経費
施設整備 (Construction of Facilities)	381.1	335.2	△45.9	・ 設備整備にかかる経費
環境適合・修繕 (Environmental Compliance and Restoration)	67.2	62.1	△5.1	・ 設備の改修や環境基準への適合にかかる経費
監査総括 (Inspector General)	36.4	37.0	0.6	○NASA の組織監査にかかる経費
【 総 計 】	18,724.3	19,000.0	275.7	

* 1 : FY2011 より、組織横断的支援に入っていた I P P (Innovative Partnership Program) を宇宙技術開発として航空研究と項目を統合し、発展させた。

* 2 : FY2011 より、コンステレーション計画及び先端技術開発に含まれたものを改廃し、新規項目を追加して振り分けなおした。

* 3 : FY2011 より、設備投資は建設・環境適合・修繕の項目に移した。